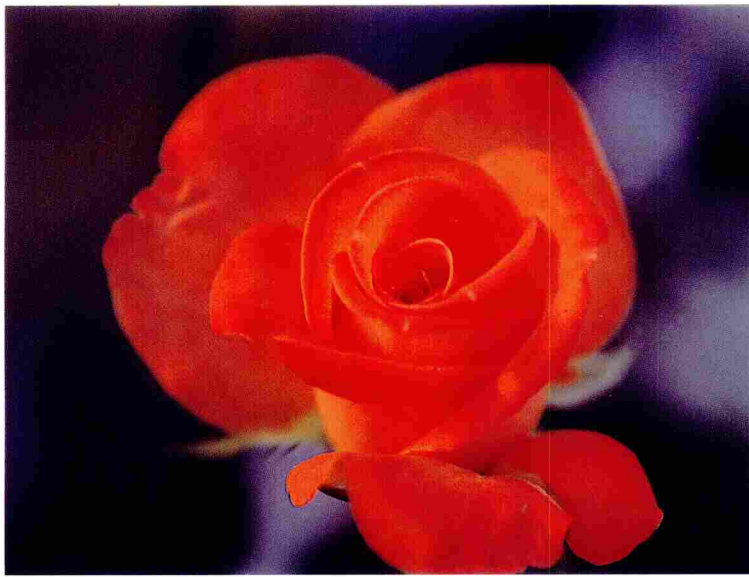


# ふらべじ

Flower&Vegetable

Vol.8 1998  
10.30  
枯葉の号

発行 北海道立花・野菜技術センター 滝川市東滝川735 TEL (0125) 28-2800 FAX (0125) 28-2299



そは微に  
われをまもるもの  
あらすしで  
句

「ふらべじ」編集 山内隆夫

## バラ *R o s a*

バラの歴史は東西文明の交流の歴史です。  
紀元前から栽培されていたヨーロッパのバラに  
中国のバラが四季咲き性、剣弁高芯の花型、お茶の香りを与え、  
現在のハイブリッド・ティー系が生まれました。  
日本の野バラはスプレイバラや蔓バラの誕生に貢献しました。  
また近年は修景用バラとして新たな発展を見せています。

人々を魅了してやまない花の女王、バラ。  
その誕生にまつわる壮大なドラマに思いを馳せてみませんか。

## 特集 野菜シンポジウム&amp;公開デー

## 野菜シンポジウム

9月11日（金）滝川市文化センター小ホールにて、財団法人「北農会」との共催で野菜シンポジウム「北海道における野菜栽培の展望と試験研究」を開催しました。

今回のシンポジウムは、農試職員による8つの話題提供とパネルディスカッションから成り、出席者は約150名でした。

話題名および発表者は以下の通りです。

なお、講演の内容は「北農」第65巻第4号の特集に取り上げられています。

—提供された話題—

1. 北海道における野菜栽培の経過と問題点  
(花・野菜技術センター 志賀主任研究員)
2. 野菜育種の現状と発展方向 (北見農試 田中研究員)
3. 新規野菜の導入の可能性 (十勝農試 西田研究員)
4. 道北に野菜産地を目指して (上川農試 黒島研究員)
5. 野菜の夏秋期作型開発 (道南農試 川岸研究員)
6. 旬の味を生かす野菜栽培 (上川農試 長尾科長)
7. 新規需要、消費者の意識の変化  
(花・野菜技術センター 中村研究員)
8. 省力・軽労働化 (中央農試 竹中科长)



花のコーナー



野菜のコーナー

## 公開デー

今年も滝川畜試と合同で、9月12日土曜日に開催しました。約1000人の来場者でにぎわいました。

アンケートの結果では61%の方が今回初めてセンターに来られたそうです。

来年の開催を期待する声も多数寄せられ、多くの方々に楽しんでいただけたようです。



研修圃場

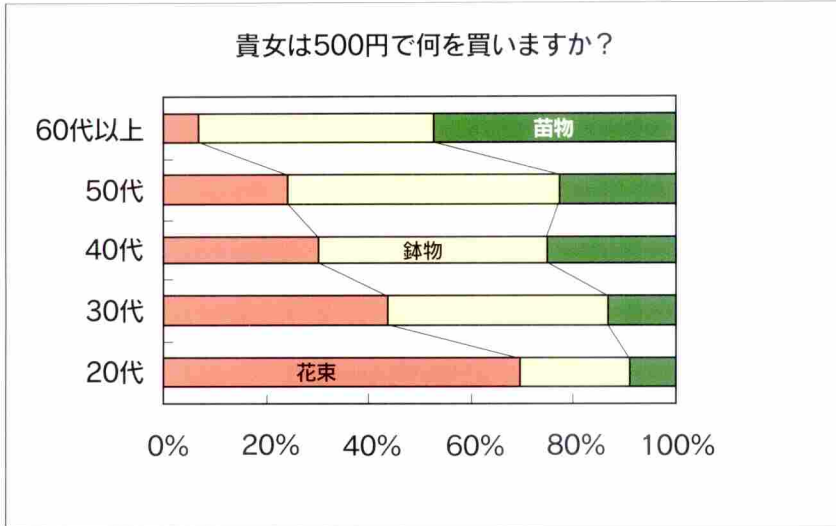


滝川畜試の羊たち



若い女性は花束がお好き

熟年女性はゆったりと花育て



公開デーに来場された方々がどんな花の楽しみ方をしているかを知りたくて、こんな質問をしてみました。  
20代は圧倒的に花束。年代が高くなるにつれ鉢物、苗物が増えていきます。苗物は60代以上の女性に大人気！人生もゆとりの時期を迎え、もう一度育てる喜びを味わっているといったところでしょうか？



総務部総務課会計係  
清水 邦彦

新スタッフ紹介

10月1日付けで新規採用のフレッシュマン（年齢26歳）が仲間に加わりました。1年半の民間での経験を生かし、頑張ってください。皆さんよろしくお願いたします。



異国の！農業人いんたびゅ〜  
異国の！農業人いんたびゅ〜

from Paraguay

今回は、当センターに遠くパラグアイから研修に来ていた、エドガーさんとビクトリアさんに研修終了日にインタビューしました。

◎エドガーさんとビクトリアさんのパラグアイでの仕事を教えてください。

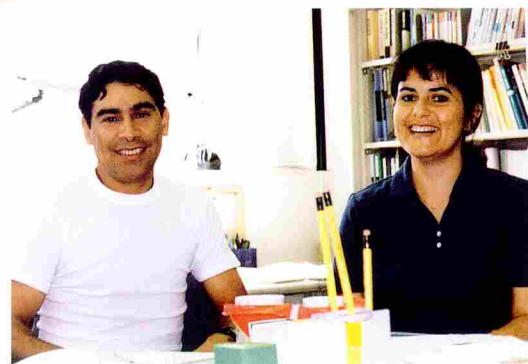
・2人とも国立農業研究所の野菜研究員です。パラグアイでは現在、小規模経営の農家が多く、高収益野菜の導入が必要とされています。高収益野菜の適正栽培方法や病害虫の防除方法を研修しに来ました。

◎研修で勉強になったことは。

- ・メロンの品質評価方法と接ぎ木です。（エドガー）
- ・トマトの接ぎ木と青枯病対策についてです。（ビクトリア）

◎パラグアイのPRをして下さい。

・パラグアイは自然が多くて環境がとても良く、物価が安くて、治安も良いです。  
是非みなさん観光に来て下さい。（エドガー）



エドガーさん

ビクトリアさん

◎最後に一言お願いします。

- ・北海道で雪を見たかったです。（エドガー）
- ・いろいろお世話になりました。（ビクトリア）

◎ありがとうございました。通訳の在田さん、ご協力ありがとうございました。

## 平成11年度北海道花き・野菜技術研修 研修生募集

研修名	研修コース	時期及び期間	募集人数
専門技術研修	・花きに関する技術	概ね2カ月間から1年間の範囲で研修 内容に応じて必要な時期・期間を定め ます	4コース合 わせて年間 20名程度
	・野菜に関する技術		
	・土壌肥料に関する技術		
	・病害虫に関する技術		
総合技術研修	・花き栽培コースⅠ期	平成11年4月12日～7月2日(12週間)	8名
	・野菜栽培コースⅠ期	平成11年4月12日～7月2日(12週間)	8名
	・花き栽培コースⅡ期	平成11年7月5日～9月25日(12週間)	8名
	・野菜栽培コースⅡ期	平成11年7月5日～9月25日(12週間)	8名

## ◎専門技術研修

・・・研修生が各自設定した研修課題に応じて、研究科に配置し、研究職員による指導や研究の補助を通じて実施します。

## ◎総合技術研修

・・・各コース毎のカリキュラムに従い、主要品目の栽培基礎技術について実施します。

詳細については、北海道花き・野菜技術研修案内をご覧ください。

## 水に想う

北見地方で洪水が発生し、海でタマネギが、タマネギ畑で魚が採れたという。このような洪水は日本および地球上各地で同時多発している。野菜畑を襲うこれらの水の由来を疑問に思った。

地球温暖化により海面からの蒸発量が増えたことが考えられる。森の開発も、木や土に保持されていた水の空中への放出を進める。そして、物を燃やした場合にも水が空中に放出される。

物の燃焼を化学式で書くと



と表される。物を燃やすと、炭酸ガスと同量の水が大気中に放出される。

大気中の炭酸ガスは、かつて人類が経験したことのないレベルへと急増している。そして地球上の水も目に見えて増えている。

上空2000mまでの空気の炭酸ガス濃度が0.03%増加したとすると、100兆tの水が空中に解放されたと試算される。

秋の長雨。雨は今日も北の大地に降り続けている。

(土壌肥料科 中村隆一)

## 編集後記

◆一晩冷え込むと、次の日樹々は驚くほど色を変えています。北海道の風景のこの秋から冬への劇的な変化に毎年目を見張ります。一番好きな季節です。世間も芸術の、文化の、と自分を高めることを応援してくれます。よーし！(アラレ)

◆死ぬほど忙しかった日々も過ぎ、今はのんびりと晩秋を満喫したいところですが、予算不足で現実には厳しいものです。確か前号でもお金のない話をしてたような気が……。 (T)

◆今年是不作といわれているきのこののですが、なぜかハナイグチが大当たり、おいしいキンチャマイグチにも巡り会え、忙しくて出足が遅れた分時期があったようです。ラッキー！ (A. S.)

◆「枯葉の号」が出る頃は、きっと一面銀世界なのでしょう。すべては私のナマケぐせのせいです。ゴメンナサイ。(R. U)

◆今回ふらべじの編集を手伝わせてもらって、パソコンの勉強にもなり、とても楽しかったです。また機会があったらやらせて下さい。(s o r a)